大阪府

# 益虫

大阪府立水都国際中学校　三年
西海　奏

耳元で羽音がした。飛び起きて、あたりを見渡すがどこにも見当たらない。そんなことをしている間に足に痒みを感じて、血を盗んでどこかへ逃げ去った泥棒を疎ましく思う。誰もが経験する夏の風物詩といっても過言ではない。

一年間で、地球で最も人間を殺している生き物を知っているだろうか。蚊である。ＷＨＯなどの統計をもとに作成された図では、二位である人間と二十五万人の差をつけて、蚊が七十二万五千人もの命を奪っている。この背景には、蚊が感染症の媒介生物であることが挙げられる。主な感染症には、デング熱やジカウイルス、原虫疾患であるマラリアなどがある。これらに感染した人の血を吸った蚊が、別の人を刺すことで、次々とウイルスを広めていくのだ。

私達人間にとって、蚊は害虫で生命を脅かす天敵のような存在であるが、水にとってはそうではない。吸血性を持つメスの蚊は人や動物の血を吸い、卵巣を発達させ、川や湖の近く、水たまりといった水辺に卵を産み付ける。その卵から孵るのが幼虫のボウフラである。ボウフラはエサとして、水中のプランクトンや生き物の死骸、排泄物といった有機物やバクテリアを食べて育つ。普通、水中の有機物はバクテリアが分解することが多いが、その場合バクテリアの排泄物によって水が汚れてしまう。それと同時にバクテリアが大量に発生すると、水中の酸素が消費されてしまい、生き物が住めなくなるという問題点もある。これらの両方をボウフラが食べるため、水を浄化し、川や湖といった私達の水源を清潔に保ってくれているのである。また、私達が汚した不衛生な排水溝の水も浄化しているのだ。これに加え、夏に町のあらゆる場所で見る蚊柱も、水の浄化に役立っている。蚊柱といっても、蚊とは別の昆虫のユスリカであり、吸血性はない。ユスリカもボウフラと同様、幼虫のときに有機物などを食べ、水質の向上に貢献しているのだ。つまり、水にとって蚊やユスリカといった生物はなくてはならない「益虫」なのである。

対して、私達は水にとっての「益虫」になれているのだろうか。私は人間は益虫ではない、一番の害虫であると考える。なぜなら、川や海などの水が汚れる主な原因は、日常生活の営みから出される生活排水だからだ。生活排水は排出源が小規模であり数も多いため、規制が難しく効果的な対策を見いだせずにいる。現状、一番の有効手段は私達が意識し、行動に移すことである。例えば多くの人にとって、川にゴミを捨てるのは悪いことと判断するのは容易である。しかし、お米のとぎ汁や使用済みの油を排水口に捨てるのも、悪いことと判断できる人は少ないのではないだろうか。こういった日常生活で、私達が知らずに行っている水を汚す行為は沢山ある。それと同時に、意識すると水を守る行為も沢山あるのだ。それらをきちんと理解した上で、行動することができれば、生活排水による汚染は少しずつでも減っていくのだと私は信じている。

蚊は人間にとって一番の害虫だ。一方で、はるか昔人類がまだ地球上に現れていない頃から、現在と同じ姿で存在している。ずっと吸血をし、卵を産み、水を浄化してを繰り返し、今まで生命を受け継いできた。この姿には私達も見習うべき点があるだろう。もうすぐ蚊が繁殖を始める季節。ボウフラはせっせとエサを食べているのだろうか。羽音で飛び起きる日はそう遠くないのかもしれない